

平成 28 年 8 月月例記者会見

質疑応答概要

1. 発表内容について

〔学研高山第 2 工区のまちづくり検討有識者会議〕

記者 高山第二工区の懇談会が非公開の理由は何ですか？

副市長 委員に自由に意見を言ってもらいたいという理由と、他市の事例を見ても非公開が多かったためです。会議要旨などはできるだけ早く公開します。

記者 自由に意見ができるかできないかという言い分は、10 数年以上前から論破されていることです。3 億 4,000 万円も市の税金を使ってやる事業で、市民の関心も高いものに、後で会議要旨を発表するという対応はいかなもののでしょうか。これは市の内部で決めたのですか？ 委員の意向を聞いて判断したのですか？

副市長 市で決めました。

記者 変える気はないのですか？ 委員に公開を諮る気はないのですか？

市長 現時点ではありませんが、今後状況によっては非公開を公開に変えることはあり得ます。今回は専門家から意見をいただくステージだと考えています。市民の関心もある話ですので、高山第二工区の開発前の段階ではタウンミーティングやワークショップなど、市民の意見をいただくタイミングももちろん考えています。

記者 公開できない理由は何ですか？

市担当 今回実施するのは懇談会です。これは市側で公開・非公開を決めます。公開することで率直な意見や公平性、円滑な会議運営に支障をきたすことと、開発の問題について公にすることで、未成熟な情報が確定した情報として広まり市民に混乱を招くことを懸念しています。高山第二工区は市の土地だけではなく民地も含まれます。所有者の方に未成熟な情報によって、不当に利益を与えることもあると考え、非公開にいたしました。

記者 委員長は誰ですか？

市担当 懇談会なので委員長や会長は置かず、進行役を置くこととなります。現在は村橋先生と考えています。互選で決定します。

記者 決まったら市に答申するのですか？ 成果物はあるのですか？

市担当 懇談会ですので意見と助言をいただく会になります。成果物はなく、自由に意見をいただいて行政がまちづくり検討案としてまとめていきます。審議会とは違うため、案を示して答申をいただくものではありません。

記者 行政施策に影響を与えるものではないのですか？

市担当 いただいた意見を尊重しながら市が検討案をまとめていくこととなります。

記者 来年の 8 月ぐらいに検討案ができるのですか？

市担当 そう目指しています。

記者 まちづくりの方向性・方策とは具体的に何ですか？

市担当 開発する場合には、どういう機能を持たせるのかや拠点づくり、開発の目的などを指します。

記者 では方策とはなにか？

市担当 事業を実現するためにどんな手法を用いるかを指します。

記者 メンバーに大学の先生が多いのは、なんらかの教育機関や研究機関を作るのですか？

市長 研究機関になる可能性はありますが、だから研究者が多いわけではありません。学研都市や先端大の先生が委員に入っているのは、けいはんな地域の中での高山第二工区がどういう目的でまちづくりをしていくのか議論してもらうために入ってもらっていますが、どういう施設・機能が第二工区にあるかというところから逆算してこのメンバーを選んだわけではありません。

記者 大規模な商業施設や住宅地になる可能性もありますか？

市長 ありえます。

記者 前回出した案が変わるわけではないのですか？

市長 あくまでも検証やブラッシュアップの場と考えています。

記者 以前は県にも協力をあおぐと言っていましたが、委員には県は入っていません。市独自でという理解で良いですか？

副市長 はい。県には次の過程で入ってもらう予定です。

記者 一番欲しい意見はどんなものですか？

市長 市で取りまとめた大きな方向性は、あくまで市の内部で決めたものであります。専門家の観点やけいはんなの地元の方からどんな意見が出てくるのか、また事業手法や主体についても議論いただき、さらに方向性を固めたいと考えています。

記者 後日公表のめどはどのぐらいか。

市担当 できるだけ速やかにということでご理解をお願いします。

〔ナラ枯れ対策〕

記者 対策としては、切るしかないのですか？

副市長 ナラ枯れになった木のうち、25%程度は復活することもあります。ナラ枯れ状態の中でビニールを被覆するやり方での対応や、どうにもならない木については切って燻蒸します。

記者 補助金は何に対しての補助で、いつから始まったのですか？

副市長 伐採・燻蒸とビニール被覆処理が対象で、昨年の4月から始まりました。当初、予算は50万円から始まり、秋に100万円増額し、昨年度は総額で150万円でした。今年度は予算が490万円です。

記者 民家に影響を及ぼす木が50本あるとのことですが、適切な管理とは切ってもらいたいということですか？

副市長 その50本とは、民家横で危ないと市が認識している木です。切らないといけない状態であれば切って欲しいということです。切る必要がある木には市から土地所有者に通知を出し、切る際には補助金を出すことを通知しています。

記者 ナラ枯れになると何がだめなのですか？ 倒木ですか？

副市長 枝が落ちたり、ひどくなれば根本から木が倒れたりして危険なことや、カエンタケも発生しま

す。

〔ふるさと生駒応援寄附〕

記者 ふるさと納税の最新の金額はいくらですか？

市担当 8月16日時点で4277万6567円です。

記者 去年の同時期と同じぐらいですか？

市担当 上回っています。

記者 寄附金額が4倍になったことはすごいことですが、大口で寄附があったのですか？単純に件数が増えたのですか？

市長 去年は1万円の返礼品を設定していましたが、今年は寄付金額に応じて返礼品を設定した効果が出たものと考えております。

記者 レインボーラムネの冬の受付再開のめどはいつですか？

市担当 現在打ち合わせ中です。

記者 レインボーラムネが受付終了まで15日間かかったのが意外でしたが、理由は何ですか？

市担当 去年に比べて個数を増やしたためです。3万円コースが受付開始8分でなくなるのは想定外だったため、すぐにストップをかけられず1万円コースから配分を変えて対応しました。

2. その他

〔生駒山麓公園の指定管理〕

記者 ピザやガパオは、一般質問があった時点から作っていないということで理解していいですか？

市長 園内で食べる分は作っているが、外に出荷はしていません。

記者 今は余った分でさえ外に出してないという理解でいいですか？

市長 食べる分以外は作っていません。

記者 委員会で、会計がずさんな形で上がってきていると質問があつて、答えられませんでした。何か指導はするのですか？

市長 答え方がはっきりしなかったという反省はあります。コミュニケーションをとってしっかり整理しなければならないのもおっしゃるとおりです。定期的な話し合いはしているので、きっちりと事務的にもやっていきたいと考えています。

記者 県が立ち入り調査をしたが、その後県から指摘はありましたか？

市長 問題があるからは正してくださいというのはなかったと聞いています。タイミングとしては今回の話があったからということかもしれないが、あくまで定期的な調査と理解しています。

〔熱中症事故〕

記者 市または市教委としてどう対策取るのですか？昨日、臨時の教育委員会や校長会で何か決めたのですか？

市長 教育委員会からは、今までも相当何回も通知し、それを受けてきちんと熱中症対策を各校やっていたのは事実です。今回、このようにお亡くなりになったので、より一層どのように取る対策があるか、教育委員会でいろんなご意見をいただいていると聞いています。なかなかこれ以上と

いうところもありますが、指導者や生徒が見て自分たちで気を付けることができるような気温や湿度がわかる温度計の設置や、運動開始前の体調の確認を、今までやってないわけではありませんが、市内の中学校のクラブ指導者にきっちりやっていくよう、やり方も含めて整理していくことも含めて教育委員会で議論していると聞いています。運動会のシーズンにもなるので、クラブ活動に加えて運動会の練習で熱中症にならないことをしっかりと考えていかなければいけないという意味では、小学校、幼稚園、保育園も含めて、どういう対策をとるのかを、しっかりと教育委員会を中心に考えてもらい、私もしっかりと見ていきたいと考えています。

記者 運動会前には何かまとめるのですか？

市長 ある程度整理して、各学校、園に伝えるプロセスは取っていききたいと考えています。

記者 生駒市立病院から近大病院へ転院した経緯は聞いているのですか？

市長 事実関係としては聞いています。

記者 なぜ転院したのですか？

市長 元々運び込まれたときかなり重度の熱中症で、処置をしていたけれども回復が見られないということで、近大病院に転送するという判断をしたと聞いています。

記者 命を落とすほどの熱中症というのは相当のものだと思います。それが教育現場で起きてしまうということは、学校側の注意義務が足りないのではないかという気がします。熱中症は、ほとんどのケースでは命は落とさない。命を落とすぐらいのことが起きてしまうことが、子どもを預ける保護者の立場からすると信用できないことです。

市長 今回の結果を見ると、若い命が亡くなっているわけなので、本当にこれ以上なく重く受け止めています。私も状況の報告を受けていますが、事故後に先生方にとって対応や病院への搬送についてはきちんと対応していたと感じています。結果をみると非常に重いことですが、注意義務を怠ってなったという立場にはなっていません。そうは言いながら、亡くなっているので言葉になりません。私にも子どもがいますので、12歳の子が亡くなったことは非常に重く受け止めています。今後どういう対策をとるかということはきちんとできる限りのことをしていきたいと考えています。先生方もしっかりとやっていますし、市教委も何回も通知を出しています。それを更に見直し、中学校によって差が無いよう共有し認識してもらおうということをしっかりとやっていきたいと考えています。

記者 事後の対応については、保健だよりも書いてあった内容どおりやっていて、よくやっていると思います。指導者がこまめに水分を取るように指導していますが、子どもの立場からするとお互いにレギュラーを取り合う競争相手であって、自分一人だけ弱音を吐くことは言いづらいのが普通の状況です。自分に勝ちたいとか、他の子にも勝ちたいとか、特に運動部の子にはそういう気持ちが強いのではないのでしょうか。「学校側も一生懸命やっていました」、では誰も悪くなかったのかという話になってしまうのではないのでしょうか。昨日の保護者会も随分時間がかかっていたようです。

市長 おっしゃっていることはわかります。私も重く受け止めていますので、痛恨の思いです。

記者 亡くなるというのは極めてまれなケースだと思います。市立病院に運ばれて夜まで過ごしているという事実があって、市立病院の中でどういう処置をして、どういうことをちゃんと対応したのかということを検証されるようなことはないのですか？

市長 適切な処置を取られたとは思っていますが、基本的に病院の対応の話で医療行為の話ですので、私がそれをどうということはありません。